

ワーク・ライフ・バランス相談室

※2021年4月より、ワーク・ライフ・バランス相談は外部委託事業となりました。
相談員は引き続き、7年間にわたり本学で従事された木下氏(シャインスピーク代表)になります。

お困りごとはありませんか? ワーク・ライフ・バランス相談員が悩みごと(仕事と家庭生活の両立、妊娠・出産・子育て、介護、研究室や職場の人間関係等)の相談をお受けします。原則として、ご本人が希望しない限り、個人情報等はどこにも提供いたしません。安心してご相談ください。

問い合わせ・予約先

ワーク・ライフ・バランス相談員
木下 薫
✉ ncu-wlb@shinespeak.page
☎ 090-6397-8826

LINE QRコード



TOPICS

2025年4月より、医学部保健医療学科およびデータサイエンス研究科新設。また、リハビリテーション病院が本学の医学部附属病院になります。



名古屋市立大学ダイバーシティ推進センターニュースレター

名古屋市立大学ダイバーシティ推進センター
〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
TEL:052-853-8062
E-MAIL:diversity@sec.nagoya-cu.ac.jp
http://www.nagoya-cu.ac.jp/about/gender/



Vol.25
2025.Mar.

各保育所の紹介

本学では、ダイバーシティ推進の趣旨を踏まえた労働・研究環境等の整備のための施策のひとつとして、4か所の学内・院内保育所を各自運営しています。

さくらんぼ保育所

市立大学・病院
(定員70名)

5歳児の子どもたちが年齢の低い子どもたちのおやつをお手伝い。何をやるの…?と立ち尽くす姿から、次第に自らお茶を注いだりコップやおやつのおかわりを配膳したりしています。順調だった矢先に…やかんのお茶をこぼしてしまいました。うろたえる子どもたちに保育者からの「こぼれた時はどうしたい?」の問いかけ。ちょっと考えて「あっ!雑巾で拭く!!」…少しずつ経験を積み重ねながら、主体的に失敗を乗り越えていくチカラもゆっくり育てたら…と考えています。



お手伝い

ぽっぽ保育所

東部医療センター
(定員33名)

豆まき



2月3日に豆まきを行いました。色々な表情の個性豊かな可愛らしいお面をつけてみんなで「はいチーズ!」。大きな鬼の的当てに新聞紙で丸めて作った豆を投げて鬼たいじの練習。本物の鬼が来たときは、驚きのあまり泣いてしまう子もいましたが、豆を投げて鬼たいじ成功! みんなの心の鬼もたいじでき、今年も1年元氣よく過ごせますように。

くさのみ保育所

西部医療センター
(定員45名)

ごますりクッキング

年に数回1人1つずつ小さいすり鉢とすりこ木を使い、ごますりクッキングをしています。12月には白菜や小松菜など茹でた野菜に混ぜてごま和えにして食べました。ごますりをする時に、ごまをちょっとつまんで味見している子もいました。ごま和えはみんなよく食べ、茹でた野菜はあっという間になくなりました。ごますり以外にも、海苔やきのこをちぎったり、とうもろこしの皮むきなどを行っています。

簡単なクッキングをすることで食への興味や関心が高まり、楽しく食べています。



ぽんぽこ保育所

みどり市民病院
(定員15名) ※0・1・2歳児

親子行事



普段からお店屋さんごっこやコンビカー遊びを楽しむ子どもたち。お店屋さんごっこを発展させ、ワークショップと交通安全教室風の遊びを取り入れた親子行事を今年は企画しました。手作りのコンビカーに乗り、信号や踏切を意識して遊んだり、大好きなラーメン、アイス、ハンバーガーを親子で作って楽しみました。

名古屋市立大学ダイバーシティ推進センター長からのメッセージ

現代における「ダイバーシティ」とは、人種や性別などの多様性を認め合い、互いに尊重しあうことを意味する言葉となりました。「ダイバーシティ推進センター」は、人間の多様性を重んじ、多様な人々が活躍することが重要であり、それが大学の活力や創造力を向上させるとの考えのもと、男女共同参画の実現、次世代育成の支援、障害者・高齢者・外国籍の人々の学びと就労の推進にも力を入れています。多様な個性を持つ学生の学びの環境を整えるとともに、2020年に「イクボス宣言」を行い、管理職員が自ら率先してワーク・ライフ・バランスの推進に努めるなど、教職員が育児・介護などの事情を抱えていても、働きやすい職場環境をつくることを目指しています。

センターでは、「ダイバーシティ推進奨励賞」を毎年募集しており、その取り組みを評価した上で表彰しています。来年度以降も引き続き取り組んでまいりますので、市大病院群を含め、多くの方々からの応募を楽しみにお待ちしております。また、育児や介護などで研究に十分時間を割くことが難しい教員を対象に、「研究支援員制度」を設けていますので、この制度も是非活用して頂ければと思います(書類選考があります)。本学のすべての教職員と学生がダイバーシティに対してさらなる理解を深め、仕事・学修を含めたそれぞれの生活が充実するように、ダイバーシティ講演会の開催や、教養教育の中にもセンターが担当する科目を設けています。センターの事業内容につきましては、大学のHP等でも詳細に報告しております。そちらも併せてご覧いただけますようお願い申し上げます。



センター長 窪田 泰江
(看護学研究科教授・学長補佐)

第12回 ダイバーシティ推進奨励賞表彰式・事例報告会

2月5日に、第12回ダイバーシティ推進奨励賞表彰式・事例報告会を開催しました。本件は、ダイバーシティ推進に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員及び学生等に対して、学長から表彰を行うもので、今年で12回目となりました。

受賞者

- 〈研究・教職員部門〉
経済学研究科 坂和 秀晃・渡邊 直樹「女性役員の登用が企業の信用リスクに与える影響」
- 〈研究・学生部門〉
経済学研究科 黒木 喜夫・坂和 秀晃・渡邊 直樹
「ダイバーシティ推進社会において、女性役員が銀行経営のパフォーマンスに与える役割についての研究」
- 〈活動・教職員部門〉
みどり市民病院 看護部「様々な背景をもつ看護職のライフステージとキャリア継続を考えた多様な勤務体制の整備」
名古屋市立大学 整形外科学教室「女性に優しい医局づくり」
- 〈活動・学生部門〉
映像によるまちづくり「ダイバーシティ推進に関するコンテンツの実装研究と成果発表」



今回は5件が受賞となり、賞状と花束の授与及び記念品の贈呈がありました。受賞後の事例報告では、ダイバーシティ推進にむけてさまざまな角度から行われた研究や活動の報告に、浅井学長、鈴木事務局長も非常に熱心に耳を傾けられ、今回の研究および活動について、この場での発表にとどまらず継続して研究・活動してほしいとお話いただきました。今後のさらなるダイバーシティの推進に向けて、活発な意見交換が行われ、大変意義のある会となりました。ダイバーシティ推進奨励賞は、本学卒業生も対象となっております。本学ホームページやポスターでもご案内しますので、みなさま奮ってご応募ください。

2024年5月1日現在、本学の女性教員比率は **26.3%** です。



研究支援員制度 利用者の声

出産、育児、介護等により研究時間が限られている研究者の研究活動を維持・促進することを目的として、毎年度、研究支援員を配置しております。令和6年度は男性2名、女性7名の研究者が採択されました。本制度をご利用いただいた皆様の声をご紹介します。(一部抜粋)

看護学研究科 性生殖看護学・助産学 講師 田中 泉香

利用した11月からは、講義や実習指導も重なり研究のための時間は割くことができない時期でしたが、支援員によりデータ処理などを進めることができました。

医学研究科 公衆衛生学 講師 中川 弘子

子育てと研究の両立が難しい中、研究支援員制度のおかげで、研究を前へ進めることができ助かりました。ありがとうございました。

薬学研究科 病態生化学分野 講師 高岸 麻紀

研究や教育業務に追われる中、子供の送迎や学校からの呼び出しがあり、仕事を中断せざるを得ない状況にあります。研究支援員制度のおかげで、データ解析を進めることができました。従事していただいた女子学生に、女性研究者育成をアピールすることもできました。ありがとうございました。

医学研究科 循環器内科学 助教 山邊 小百合

風間は臨床に忙殺され、研究時間がほぼありません。研究支援員のおかげで研究を進めることができ、大変感謝しております。

看護学研究科 看護マネジメント学 准教授 秋山 直美

国際共同研究に本格的に取り組む機会を得ました。強力な支援のおかげで、思い切り研究に励むとともに、子供との時間も大切にできています。心から感謝いたします。

ダイバーシティ推進セミナー オンライン (Zoom) 開催 [LGBTQと多様性]

2月12日にダイバーシティ推進セミナーを開催し、教職員23名の参加となりました。講師として、一般社団法人ELLYより理事の峰山和真氏をお迎えいたしました。

セミナーでは、なぜLGBTQについて学ぶのか、なぜ取り組む必要があるのか、何から始めればいいのか、クイズやワークを通して楽しくお話いただきました。セミナー後は「自分の中にある無意識の思い込みで、他の人を傷つけないように、想像力や思いやりを持って日常生活を送りたいと思いました。」「マジョリティの特権といいますが、自分たちが当たり前だと思っていることが、実は当たり前ではないということを知るためにも、当事者の方の意見をお聞きする機会が得られて良かったです。

自分の子どもたちにも今日の講演の内容を話して聞かせたいです。」「異性による介助の場面は想定出来ていなかったで、参考になりました。」「LGBTQの人々が日常生活で直面する困難や、社会的な偏見の影響を学ぶ中で、単に知識を得るだけでなく、自分の言動が他者にどのような影響を与えるのかを意識することが重要だと感じました。」等の感想が寄せられ、これからの日常生活に活かせる内容となりました。



ワークライフバランス講演会 桜山 (川澄) キャンパス及びオンライン (Zoom) 開催 [多様な世界を生きるためのマインドフルネス]



2月19日にワークライフバランス講演会を現地及びZoomによるオンラインで開催し、教職員25名の参加となりました。講師として、本学ワーク・ライフ・バランス相談室・相談員のシャインスピーク 木下薫氏をお迎えいたしました。

セミナーでは、異文化感受性モデルという切り口で、多様性を受容することについてお話いただき、その後、マインドフルネスの実践として、呼吸法や自席でできるヨガなどを教えていただきました。

開催後のアンケートでは、「DMISの話は自分自身を客観的に見ることができ、より適応に近づいていけるよう、心を広く持ちたいと思った。」「6種の文化的な進化の分類に興味深く拝聴いたしました。この分類の良し悪しが文脈で変化することもあるかもしれないな、と感じました。」「リラックスできた。肩こりの改善につながった。勤務中に短時間で、運動できると仕事の効率も高くなる。」等の感想が寄せられ、知識の習得とあわせて心身ともにリフレッシュできる機会となりました。

学生と教職員の懇談会 滝子 (山の畑) キャンパスにて開催

1月24日に、学生と教職員の懇談会を開催し、学生と教員あわせて154名の参加がありました。23グループ(教職員1~2名×学生6~7名)のグループトークを実施し、前半と後半で教職員のグループ換えをしました。自己紹介と教職員からの話題提供後、意見交換を行いました。

教職員のワークライフバランス、社会人生活やダイバーシティへの考え等、様々な質問や意見が飛び交い盛り上がりました。

参加者からは「職場としての名市大について、そもそも働くこととは何かなど、短時間ながら学生たちと本音の対話ができとてもよかった。」「学生とワークライフバランスについて話す機会はなかったので新鮮だった。」「学生が『仕事』に対してどんな不安を持っているのか生の意見が聞けたのは貴重な経験だった。また、学生から私達教職員がどう見えているかも身をもって感じる事ができた。」等、参加した教職員からも好評で、学生と教職員の距離が近くなるイベントとなりました。



教養教育科目「大学特色科目」の紹介

ダイバーシティ推進センターでは、学生が社会的性差(ジェンダー)と平等について理解し、考え方や行動に生かすことができるように、平成24年度から「大学特色科目」として、前期と後期に1科目ずつ開講しています

前期 地域社会で活躍する女性

ジェンダーについて総合的な知識、情報を得るとともに、企業や自治体における男女共同参画への取り組みや女性経営者たちの経験を通して、社会における新しい働き方を学ぶ科目です。ジェンダーの固定的役割にとらわれることなく、柔軟な発想と多様性の尊重により、企業や自治体における男女共同参画をふまえた働き方を考える機会となりました。



グループワークの様子

第1回(4/12)	ダイバーシティ推進センター センター長 窪田泰江	ガイダンス
第2回(4/19)	名古屋大学大学院 法学研究科 教授 田村哲樹	ジェンダー論
第3回(4/26)		男性の家庭参画
第4回(5/10)	名古屋市スポーツ市民局 市民生活部男女平等参画推進室	名古屋市の 男女共同参画
第5回(5/17)	名古屋市総務局 職員部人事課	名古屋市における 女性の活躍(1)
第6回(5/24)	名古屋子ども青少年局	名古屋市における 女性の活躍(2)
第7回(5/31)	ダイバーシティ推進センター センター長 窪田泰江	全体討論
第8回(6/7)	社会保険労務士法人名南経営 特定社会保険労務士 宮武貴美	企業における 女性の活躍(1)
第9回(6/14)	株式会社エステム 代表取締役社長 塩崎敦子	企業における 女性の活躍(2)
第10回(6/21)	中北薬品株式会社 総務人事本部 森有紀子	企業における 女性の活躍(3)
第11回(6/28)	一般社団法人中部SDGs推進センター 副代表理事 百瀬則子	企業における 女性の活躍(4)
第12回(7/5)	特定非営利活動法人参画プラネット 常任理事 重原惇子	男女共同参画の推進
第13回(7/12)	株式会社キャリアビジョン 代表取締役社長 野村恵美子	企業における 女性の活躍(5)
第14回(7/19)	リゾートトラスト株式会社 人事企画部 吉田幸代	企業における 女性の活躍(6)
第15回(7/26)	ダイバーシティ推進センター センター長 窪田泰江	全体討論

後期 ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ

名市大の各研究科と大学病院の教職員が理系・文系という学問の多様性を超えてダイバーシティについて多面的に講義を展開しています。また、今年度は授業の中でイコールなごやシンポジウムを開催し、アンコンシャス・バイアスについて学びました。



イコールなごやシンポジウムの様子

第1回(9/27)	ダイバーシティ推進センター 副センター長 安部賀央里 名古屋人権施策推進室	ガイダンス/ 同和問題(部落差別)の 正しい理解
第2回(10/4)	理学研究科 教授 中務邦雄	ジェンダーと科学
第3回(10/11)	医学研究科 教授 岩崎真一	医療における ワークライフバランス
第4回(10/18)	イコールなごや	イコールなごやシンポジウム
第5回(10/25)	データサイエンス学部 准教授 安部賀央里	大学におけるダイバーシティ
第6回(11/1)	病院診療技術部 臨床検査技術科 松井竜三	仕事と家庭人の両立
第7回(11/8)	芸術工学研究科 教授 太幡英亮	Space for Diversity
第8回(11/15)	看護学研究科 准教授 大橋麗子	子どもの権利と子ども虐待
第9回(11/22)	看護学研究科 講師 田中泉香	妊娠・出産・育児に関わる 女性の健康と支援
第10回(11/29)	データサイエンス学部 准教授 安部賀央里	医学・医療に携わる者の ダイバーシティを考える
第11回(12/6)	経済学研究科 教授 山本陽子	ワークライフバランスと 企業業績
第12回(12/13)	人間文化研究科 教授 宮下さおり	職業におけるダイバーシティ
第13回(12/20)	人間文化研究科 教授 宮下さおり	職業と家庭生活の調和 -オランダモデル
第14回(1/10)	経済学研究科 教授 藤田菜々子	少子化とワークライフバランス -1930年代のスウェーデンの経験-
第15回(1/24)	ダイバーシティ推進センター センター長 窪田泰江 副センター長 安部賀央里	ダイバーシティ推進センター 企画への参加 「学生と教職員の懇談会」